

## すがすがしく新年を迎える

シラスまき

都城地域に伝わる年越しの風習のシラスまきが12月29日、今町の愛宕神社で行われました。乾燥すると真っ白になるシラスを、雪や塩に見立てて境内を清め、一年間の無病息災や五穀豊穡に感謝する伝統の行事。地元3つの公民館の氏子らが、約2トンのシラスをスコップなどで一面にまき、新年を迎える準備に汗を流しました。上今町公民館長の中馬樹美郎さんは「すがすがしい気持ちで新年を迎えられる。代々受け継がれている伝統行事をこれからも大切にしていきたい」と笑顔で話しました。



## 息を弾ませ健康祈願

新春初詣健康マラソン大会

今年1年の健康を祈願する初詣健康マラソン大会が1月2日、山之口町安楽寺周辺で開催されました。地域おこしを目的に、下富吉地区の住民らが企画運営する同大会。2歳から83歳までの約450人の参加者らは、スタートの号砲とともに安楽寺を出発し、的野正八幡宮で健康を祈願。その後、熊野神社までの行程で健脚を競いしました。入口ゆきのさん(沖水小4年)は「途中、気分が悪くなったけれど、最後まで走れた。家族の健康をお祈りできた」と息を弾ませていました。



## 一年の景気上昇を願って

公設市場取引業務始め式

市内で生産された青果や水産物を扱う公設地方卸売市場で1月5日、取引業務始め式が行われました。取引引きの活性化と一年の安全を願って三本締めが行われた後、池田市長の「はい、なんぼっ」の掛け声で初競りを開始。競り人や仲買人の威勢の良い掛け声が飛びかう中、野菜や水産物が次々と競り落とされました。今年の景気を占う初競り価格は、長崎県産のタイに4万円と近年にない高値が付いたほか、地元産のイチゴ1箱に1万円の値が付くなど、景気の先行きに明るい希望が見えました。



## PR事業全開!

ぼんちくんのPR部長就任と「当地ラジオ体操の発表

本市のPRキャラクターぼんちくんが1月5日、都城市PR部長に就任し、辞令交付式が行われました。ぼんちくんの生みの親、今村幸一さんは「長年の夢がかなって、ぼんちくんが皆さんの目の前で踊ったり、おどけたりする姿に感動しています」と目頭を熱くしていました。また、その後に行われた「当地ラジオ体操「みやこんじょ弁ラジオ体操」の発表披露では、ぼんちくんと池田市長らが、みやこんじょ弁の面白おかしい掛け声に合わせて、勢いよく体を動かす様子を見ることができました。



## 桜咲く春を願って

都城西高校合格うどんの振る舞い

正月休み返上で頑張る受験生を応援しようと1月6日、都城西高校でPTAによる特製の合格うどんが振る舞われました。毎年恒例の行事に、3年生や保護者ら約300人が参加。生徒らは、合格の焼き印が押された丸餅や、桜の形をした特製のかまぼこなどが入った具だくさんのうどんを笑顔で頬張っていました。本村佳琳ほんむらなかりんさんは「身も心も温まりました。家族や先生など応援してくれる人たちの気持ちに応えられるように、志望校に合格して恩返しをしたい」と決意を新たにしていました。



## 無病息災を炎に祈る

オネッコ（どんと焼き）

竹で組んだ巨大なやぐらに火を放ち、1年の無病息災を祈願するおねっこが市内各所で行われました。1月10日に上長飯町の竹町地区で行われた同行事には、地区住民約180人が参加。還暦や厄年を迎える地区の代表らがやぐらに火を放つと、竹のはじける音とともに勢い良く燃え上がり、歓声が沸き起こりました。今年初めて実行委員長を務めた満行優まんぎんゆうさんは「子どもから大人まで、地域の皆さんに一年間を元気に過ごしてほしい」と地域の安全、住民の健康を祈願していました。



## 地域を守る消防団の勇姿

消防団出初式

市民の生命と財産、地域の安全を守るために活動している消防団の出初式が1月11日、沖水河川敷で開催されました。消防団員ら1,319人が参加。会場内では、団員らの規律や服装の点検、消防車100台による一斉放水が行われました。また、発水体験や、はしご車搭乗体験なども行われ、多くの家族連れらで賑わっていました。財部遥輝はるかきくん（6歳）は「発水体験がおもしろかった。保育園では、地震が起きたときに、机の下に隠れることを習いました」と話していました。



## 福の神との愉快なやりとり

カセダウイ（かせだうり）

五穀豊穡や家内安全を祈願する伝統行事カセダウイが1月14日、市内各地で行われました。山野原さんやばる地区では、壮年会員らが顔を黒く覆い、みのかさを身に着けた福の神に扮して各家庭を訪問。絵馬や家庭用品などをつけた熊手を、身振り手振りで高く売りつけようとする福の神と、値切ろうとする住民とのユーモアあふれるやり取りに、家中が笑いに包まれました。坂元浪男なみのさんは「毎年この日が楽しみ。熊手は壮年会員らの手作りで、温かみがあり、家族の安全を守ってくれている」と喜んでいました。





# 人の風景

smiling faces of miyakonojo

## 日本学生科学賞入選

都城泉ヶ丘高等学校附属中学校3年

山下 日菜子<sup>ひなこ</sup>さん

**中** 学生と高校生の日本で最も伝統ある科学コンテスト「第58回日本学生科学賞」で、山下日菜子さんの研究「太陽の光を電気に変える花の謎」が見事入選3等に選ばれました。

山下さんは小学生の頃から理科の実験が好きで、「実験する機会が多いのでは」と考え、泉ヶ丘高校附属中学校に入学。中学2年生から学校の課題である研究論文の作成に取り組み始めました。最初は何をテーマに選べばよいか悩んでいた山下さん。知人との会話の中で、太陽の光を電気に変えるということを不思議に思い、その仕組みについて研究してみようと考えました。

山下さんは、まず、太陽電池の仕組みや種類などをさまざまな文献などで調べ、その中でも色素を用いた太陽電池に興味を持ちました。「自然にある色素でも、太陽電池ができるのではないか」と考え、自宅の庭に生えていたトウゴウギクやブルーベリーなど、身近にある植物を用いた溶液で太陽電池を作成。電子オルゴールを使って音の違いを調べたり、電圧計で測定したりして、特定の色素が発電に影響することを解明しました。



部活動や英語の弁論大会出場などの忙しい中で、研究に悪戦苦闘した山下さん。「絶対に最後までやり遂げる」という強い思いで取り組んだ結果、完成した研究論文が見事入選。指導した黒木亨<sup>とむら</sup>先生も、「粘り強く、自分が納得するまでやり遂げる姿勢が素晴らしい生徒。入選の報告には驚いたが、日ごろの努力が実った結果」と評価し、今回の入選を称えます。

「まだまだ解明したいこともあるので、機会があればもっと深く研究したい」と意欲的な山下さん。「これからもいろいろな勉強や経験を積みながら、理科に関係する進路に進みたい」と未来への夢を描いていました。



■眺める霧島山から撮る霧島山へ

「子供の頃は眺めるだけの霧島山でしたが、今では一番の遊び場です」と話すのは、高原町役場に勤務する内村秀次さんです。

20年以上、霧島連山の写真を撮り続けている内村さん。これまでに、霧島連山や自然を題材とした写真集を出版し、数々の賞を受賞しました。また、平成23年1月の新燃岳の大噴火の時には、防災担当として、初めて目にする大噴火



の様子を画像に収めました。

■霧島山とのつながり

幼い頃から、常に霧島山を一望する環境にいた内村さん。霧島山を撮影対象として意識するようになったきっかけは、撮影旅行で訪れた北海道やペルーで雄大な山々をフィルムに収めたことでした。それ以来、霧島山にも興味を持ち、カメラを手にする日々が続いた内村さん。自身の結婚式も霧島の山中で挙げました。

以前と比べると、撮影のために霧島に分け入る回数も少なくなつた内村さん。それでも「霧島山への興味が尽きる事はありません」と目を輝かせていました。



◎問い合わせ

高原町まちづくり推進課  
☎0984-42-2115

※環霧島圏域のイベント情報を、市ホームページで紹介しています



盆地生まれの**元気**をいただきます

1日の野菜摂取量は  
350g



豚肉の梅シソ巻きフライ

※1人分210kcal、塩分1.0g

豚肉は、必須アミノ酸を豊富に含んでいて、吸収効率にも優れた良質のタンパク質源です。また、ビタミンB<sub>1</sub>が多く含まれ疲労回復の強い味方です。



豚肉で野菜などを巻くときに、しっかり巻くと切った際の見栄えが良く、崩れにくくなるので、食べやすく仕上がります。



◎問い合わせ 健康課 ☎23-2765



●材料 (4人分)

- 豚もも(薄切り)…30g×6枚 しょう油…少々
- 梅干し…3個 青シソ…6枚 ニンジン…50g
- A【だし汁…50cc みりん…小1 薄口しょう油…小2】
- 小麦粉…大2 卵…1/2個 パン粉…大4 油…適宜
- ※サラダ菜…20g ミニトマト…4個

●下準備

- ニンジン…棒状に切ってAで柔らかくなるまで煮る
- 梅干し…種を取り除き、半分に切る

●作り方

- ①青シソに、梅干しとニンジンを乗せて巻く
  - ②豚肉にしょう油を振り、①を乗せて巻き、小麦粉、溶き卵、パン粉の順番に衣を付ける
  - ③170~180度に温めた油で②を揚げ、半分に切り皿に盛る
- ※好みで、サラダ菜やトマトと一緒に盛ると彩りがよくなります

ちょっとひと工夫

豚肉で巻く具材を、季節の野菜やチーズ、ゆで卵を刻んで入れても一味違った一品として楽しめます。